

製品名: CA IX(12F10)マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM07769**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、pH 7.4、0.5% 保護タンパク質、防腐剤として 0.02% 新型防腐剤 N、50% グリセロールを含有。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:3000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:200
分子量	38-48kDa

抗原情報

遺伝子名	CA9 CA9; G250; MN; Carbonic anhydrase 9; Carbonate dehydratase IX; Carbonic anhydrase IX;
別名	CA-IX; CAIX; Membrane antigen MN; P54/58N; Renal cell carcinoma-associated antigen G250; RCC-associated antigen G250; pMW1
遺伝子 ID	768.0
SwissProt ID	Q16790
免疫原	CA IX の合成ペプチド

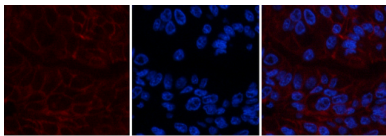
背景

炭酸脱水酵素 (CA) は、二酸化炭素の可逆的な水和を触媒する亜鉛金属酵素の大きなファミリーです。呼吸、石灰化、酸塩基平衡、骨吸収、房水、脳脊髄液、唾液、胃酸の生成など、様々な生物学的プロセスに関与しています。組織分布と細胞内局在は多岐にわたります。CA IX は膜貫通タンパク質であり、腫瘍関連炭酸脱水酵素アイソザイムとして知られているわずか2つのうちの1つです。すべての明細胞腎細胞癌で発現しますが、正常な腎臓や他のほとんどの正常組織では検出されません。細胞増殖と形質転換に関与している可能性があります。この遺伝子は蛍光 in situ ハイブリダイゼーションによって 17q21.2 にマッピングされましたが、放射線ハイブリッドマッピングでは 9p13-p12 に局在しました。[RefSeq 提供、2014年6月]触媒活性: $H(2)CO(3) = CO(2) + H(2)O$ 、補因子: 亜鉛、機能: 二酸化炭素の可逆的な水和。pH 調節に関与。細胞増殖および形質転換の制御に関与している可能性がある。子宮頸部腫瘍の新規特異的バイオマーカーであると思われる。誘導: 低酸素状態による。PTM: Asn-346 は高マンノース型グリカン構造を有する。類似性: α -炭酸脱水酵素ファミリーに属する。細胞内局在: 微絨毛表面および核、特に核小体に見られる。サブユニット: ジスルフィド結合によって連結されたオリゴマーを形成する。組織特異性: 主に癌細胞株で発現する。発現はごく少数の正常組織に限定されており、最も豊富な発現は胃粘膜上皮細胞で確認されています。

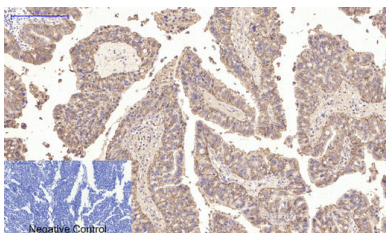
研究分野

窒素代謝;

画像データ

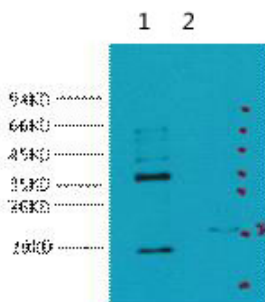


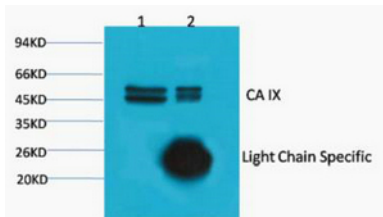
ヒト肝癌組織の免疫蛍光染色。1, CA IX モノクローナル抗体 (12F10) (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



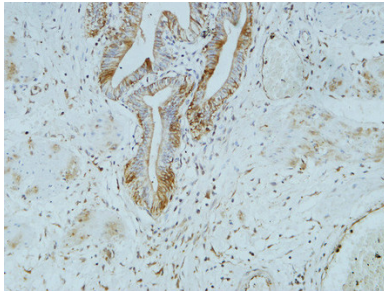
パラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。1. CA IX モノクローナル抗体 (12F10) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。

1) HeLa、2) 293T (1:5000 に希釈) のウエスタンブロット分析。

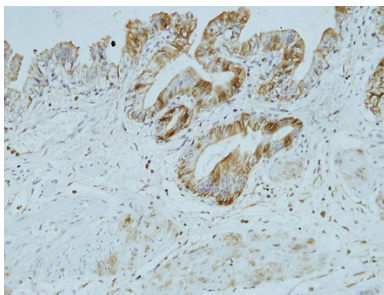




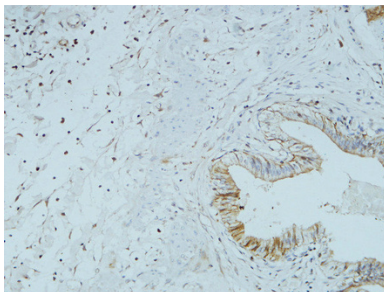
1) 入力: HeLa 細胞ライセート 2) IP 産物: IP 希釈率 1:200



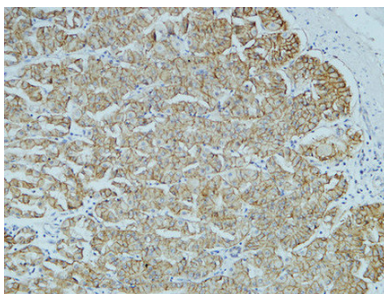
パラフィン包埋ヒト胆嚢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晩) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



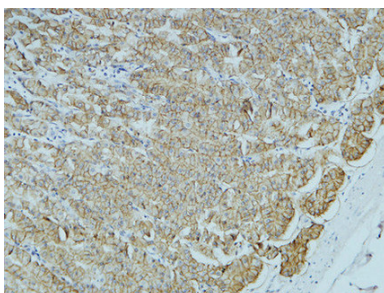
パラフィン包埋ヒト胆嚢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晩) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胆嚢の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 (4°、一晩) に希釈した。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を抗原賦活化に使用した。3、二次抗体を 1:200 (室温、30分) に希釈した。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晩)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト胃の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:100 に希釈 (4°、一晩)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。

